

(公開学習Ⅱ) 第1学年2組 体育科学習指導案

授業者 新 康江
体育館

1 単元名 いろいろな動きを楽しもう(体づくり運動)

2 授業構成

(1) 教材に対する反省と新しい提案

本単元は、学習指導要領第1,2学年の目標に次のように位置づけられている。

A 体づくり運動

(1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。

ア 体ほぐしの運動では、心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなでかきわり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。

イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとったり移動をしたりするとともに、用具の操作などをする。

(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 体づくりのための簡単な運動の行い方を工夫できるようにする。

ライフスタイルの変化は、児童の体力、運動能力の低下という問題を生み出している。本校の生活実態アンケートでも、「帰宅後の外遊び」について、「ほぼ毎日遊ぶ」が7%と大変少ない。また「週に1～3回、学校外で運動する」児童は、64%という結果であった。学習指導要領の体育科改定の方針の一つとして、「体力の向上を重視し、『体づくり運動』の一層の充実を図るとともに、学習したことを家庭などで生かすことができるようにする」とある。本校児童の現状から考えても、「運動に進んで取り組む態度の育成」に取り組んでいかなければならない。

「多様な動きをつくる運動遊び」は、学習指導要領で新たに示された内容である。これは体ほぐし運動とともに、楽しく運動(遊び)をしながら、体の基本的な動きを総合的に身につけることをねらいとしている。そして、「体のバランスをとる運動遊び」「体を移動する運動遊び」「用具を操作する運動遊び」「力試しの運動遊び」の4つの運動遊びから構成されている。低学年では、最も基本的な動きを運動遊びとして楽しく経験することによって、動きのレパートリーを増やし、動きを広げることをめざしている。様々な動きを経験し、基本的な動きを身につけることは将来的に体力の向上につながっていくと考えられる。しかしながら、動きのイメージを膨らませられないと、児童がこれまで経験したことのない動きを試したり、難しい動きに挑戦したりすることはできない。だからこそ、児童自身がやってみたい、おもしろそうだと思うような動機づけやしなかけを意識して授業を構成していきたい。

さらに、児童自身が「わかってできる」ようになるために、主体的に学び、試行錯誤するような授業づくりをめざしたい。一人一人が明確な課題を持って活動に取り組み、仲間とともに達成感や満足感を味わえるようにしていきたいと考える。

(2) 子どもの学びの実態と期待する学び方

本校の体育科のテーマは、「豊かなかかわりと思考を高める学び合いのある体育科学習」である。「豊かなかかわり」とは、「教材とのかかわり」はもちろん、「子どもたちの思考を高める教師のかかわり」や「子ども同士の学び合いにおけるかかわり」ととらえている。

本学級の児童(男子17名、女子18名 計35名)は、日頃から外遊びでしっかり体を動かす児童は、事前に実施した体育に関わる意識調査でも高い数値を示している。一方、休み時間に外遊びを好まない児童は、体を動かすことに消極的で運動の機会も少ない傾向がある。全国や県内でも運動の二極化が問題となっているが、本学級でもその傾向ははっきり見られる。5月下旬に実施した体力テストで、1年生児童のボール投げや立ち幅跳び、反復横跳びの様子を見ると、「うまく体が使えていない。体の動きがぎこちない。」と感じた。これは遊びの経験の少なさや発達のアンバランスなど、様々な要因があると思われるがこれらの実態を踏まえ、体育学習のあり方を考えていかななくてはならない。

そこでこのような実態をふまえ、誰もがつまづき感を持たないよう、今まで身に付けてきた動きと運動感覚に個人差はあるが、まずは自己の能力に適した動きを選ばせたい。そして、課題が易しくなるような場を活かして基本的な動きができるようにしていきたい。そのために、導入の段階で基礎となる動きを段階的に習

得できる運動遊びを有効に取り入れていくようにしたい。また、誰もが一通りの技の動きを体験できるように、動き方やそのポイントを知る機会を用意するようにしたい。そのために、「わたしたちの体育」に載っている活動例を参考にしたり、いろいろな動きの例を掲示したりしていきたい。一人一人が自分の課題をもって工夫しながら活動に取り組み、仲間と互いに励まし合い、高め合い、助け合って学習を進めていけるようにしたいと考える。また、個人の課題が中心になりがちになるので、すでにできるようになった動きを仲間と合わせるといった課題を与えると新たな楽しみを味わうこともできるだろう。そこで、単元の最後に、「わくわく わんぱくパーク」を開き、ともに動き、お互いの動きを見合うなかで、意欲の高まりと動きの高まりを期待していきたい。

(3) 本時の学習に向けての教材研究

指導にあたっては、児童が「おもしろい」「楽しい」と感じる授業づくりをめざしたい。1年生ということもあり、まずは運動の仕方や技能のポイントを教師がしっかり押さえながら学習を進めたいと考えた。また、子ども達が夢中になって運動に取り組むためにも、あまり経験のない動きと出合わせることにした。はじめは、教師から「こんな動き、できるかな。」といった提示をすることも考えている。4月当初から、授業の初めに、体ほぐしの運動遊びとして柔軟運動やペアストレッチ、伝承遊びを少しずつ取り入れながら学習を進めてきた。すべての児童が協力しながら運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、ペアやグループでまねっこ遊びをしながら、自分たちで新しい動きを見つけて遊ぶ活動を取り入れたい。お互いの多様な動きを取り入れながら、自然に動きのレパートリーを増やし、動きの広がりを期待する。そのために、易しい動きから条件(人数、回数、距離、時間、用具、姿勢、方向など)を変化させて、動きがより広がるように仕組んでいきたい。多様な動きを試行錯誤しつつかわり合うなかで、児童の満足感や達成感が共有できると考える。また、活動の中で友達の動きに目が向くように教師が働きかけることで、互いに認め合いながら活動する楽しさを味わえるよう、支援していきたいと考える。

3 単元の目標

- ・体のバランスをとったり移動したりすることができるようにする。(運動)
- ・進んで運動に取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。(態度)
- ・体づくりのための簡単な運動の行い方を工夫できるようにする。(思考・判断)

4 単元計画(全6時間)

1	2・3	4・5	6(本時)・7
オリエンテーション ○学習課題を確認し単元の見通しを持つ。 ○きまり、学習の場、安全面について知る。 ○いろいろな体ほぐしの運動を行う。 ・へんしんじゃんけん ・おしくらまんじゅう ・なべなべそこぬけ ・まねっこ遊び ・ラインウオーク ・ペアでストレッチ ○学習のまとめをする。	○学習課題の確認をする。 ○いろいろな動きをつくる運動遊びをする。 ★バランスをとる運動遊び ・片足で回る ・ストップバランス ・転がる・起きる ・背中合わせで立つ・座る ★体を移動する運動遊び ・はう→歩く→走る ・とぶ・跳ねる ・ルンルンかけ足 ・リズム太鼓に合わせて ○新しい動きをつくって遊ぶ。 ○学習のまとめをする。	○学習課題の確認をする。 ○いろいろな動きをつくる運動遊びをする。 ★用具を操作する運動遊び ・ボール遊び ・フープ・わ遊び ・なわ遊び ・ぼう遊び ★力試しの運動遊び ・腕立て時計回り ・おんぶで運ぼう ・いろいろずもう ○新しい動きをつくって遊ぶ。 ○学習のまとめをする。	○学習課題の確認をする。 ○今までの運動遊びを組み合わせたたり、新しく考えたりした動きを発表する。 ○自分がやってみたい運動遊びにチャレンジする。 ○学習を振り返り、単元のまとめをする。

5 本時の学習について

(1) 本時の目標

○自分の試してみたい動きを選んで、友達とともにいろいろな動きを工夫し、楽しむことができる。

(2) 期待される児童の様相

A 自分の力に合った動きを進んで取り入れ、めあてを意識しながら挑戦することができる。

B 自分の力に合った動きに取り組み、楽しんで挑戦することができる。

C 自分のできる動きに取り組み、友達とともに自分の考えた動きをする。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援 ●評価)

学習活動	教師の支援・意図	評 価
1 いろいろな動きを音楽にのって行う。	○前時までに行ったいろいろな動きを自由に取り入れて体ほぐしをする。	●友達とともに楽しんで体ほぐしをすることができたか。
2 本時の学習課題を確認し、めあてをもつ。	◇今までの運動遊びや動きを掲示物で確認させる。	
ともだちといっしょに もっといろいろなうごきで あそんでみよう。		
3 自分が、もう一度やってみたい場へ行き、いろいろな動きを考えて楽しく遊ぶ。 ★バランスをとる運動 ★体を移動する運動 ★用具を操作する運動 ★力試しの運動	○個々の動きのがんばりどころや新しい動き・見せ場を友達と話し合うことで、自分のめあてをより明確にさせたい。 ○児童が自分の課題に合った練習の場や方法を選べるようにさせたい。(回数、距離、時間、用具、姿勢、方向など) ◆一人一人、課題が持てるよう、具体的な言葉かけを心がける。 ◆まだできていない動きに挑戦している児童には、動きのこつを助言する。 ○友達同士で、動きのよさや見せ場について、声をかけ合うようにさせる。	●動きのレパートリーを増やそうとしているか。
4 全体でどのような動きの工夫をしたか話し合う。	○動きのスムーズさ(流れ)、リズム、正確さ、力強さ、バランスなどについてよかったところや直すべき点を発表させ、動きの高まりを意識させる。 ◇友達とペアやグループになって動いていた際は大いに褒め、動きの広がりも意識させる。	●友達のがんばりや動きの工夫を進んで見つけ、伝え合うことができたか。
5 本時の学習のまとめをする。	○次時は、単元の総まとめとして「わくわくわんぱくパーク」を開き、動きをお互いに紹介し合うことを知らせる。	
6 後片付けをする。	○安全に配慮しながら、グループで協力し片付けを行うようにさせる。	

参考文献：学校体育実技指導資料 第7集 体づくり運動—授業の考え方と進め方—
小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 低学年
わたしたちの体育1 文教社